

説明資料

志布志港長期構想検討委員会 (第3回委員会)

令和7年1月29日

委員会の流れ（第1回→第2回→第3回）

第1回

長期構想策定の背景

概要（志布志市・背後圏／志布志港）

取り巻く環境の変化

現状の課題

上位計画・関連計画

志布志港が果たす役割／目指すべき方向性（案）

物流・産業 国際物流産業振興に資する港

人流・賑わい 観光による地域振興の推進に資する港

安全・安心 災害に強く住民や企業の安全・安心を支える港

環境・エネルギー 環境に配慮した脱炭素化に資する港

委員・幹事・オブザーバーから意見

意見反映

第2回

長期構想の内容

長期構想の基本理念

志布志港の目指す姿

基本戦略

取組方針

具体施策

ゾーニング

物流・産業

人流・賑わい

安全・安心

環境・エネルギー

委員・幹事・オブザーバーから意見

パブリックコメントから意見

意見反映

意見反映

第3回

長期構想（案）

目次

第2回幹事会 ⇒ 第2回委員会

第1章 第1回委員会での主な意見と対応

- (1) 全体に関する意見
- (2) 物流・産業に関する意見
- (3) 人流・賑わいに関する意見
- (4) 安全・安心に関する意見
- (5) 環境・エネルギーに関する意見

第2章 長期構想の基本理念

第3章 志布志港の目指す姿と基本戦略及び取組方針

- (1) 物流・産業
- (2) 人流・賑わい
- (3) 安全・安心
- (4) 環境・エネルギー

第4章 具体施策

- (1) 物流・産業、人流・賑わい
- (2) 安全・安心、環境・エネルギー
- (3) 具体施策のスケジュール

第5章 ゾーニング

第6章 志布志港長期構想（素案）

パブリックコメント

令和6年6月13日～7月12日まで

意見：34件

第3回幹事会 ⇒ 第3回委員会

第1章 第2回委員会・パブリックコメントでの 主な意見と対応 ※別冊

第2章 長期構想の基本理念

第3章 志布志港の目指す姿と基本戦略及び取組方針

- (1) 物流・産業
- (2) 人流・賑わい
- (3) 安全・安心
- (4) 環境・エネルギー

第4章 具体施策

- (1) 物流・産業、人流・賑わい
- (2) 安全・安心、環境・エネルギー
- (3) 具体施策のスケジュール

第5章 ゾーニング

第6章 志布志港長期構想（案）※別冊

第1章 第2回委員会・パブリックコメントでの主な意見と対応 ※別冊

第2章 長期構想の基本理念

<基本理念>

志布志港が発展してきたこれまでの歴史や現在の利用状況を背景に、想定される社会経済情勢の展望や、志布志港の背後地域及び九州地域に果たすべき役割を踏まえ、志布志港の長期的なビジョンとしての基本理念を以下のとおり定めた。

**地域のポテンシャルと稼ぐ力を引き出す、
世界に開かれた“志”あふれる 志布志港**

- 南九州地域は、豊かな自然環境を生かし育まれた農林水産物や魅力ある観光資源など多くの強み（ポテンシャル）を有している。
- 地域発展の基盤を強化するためには、観光資源の更なる磨き上げや農林水産業、製造業などの各分野において「稼ぐ力」の向上を図っていくことが必要不可欠。
- 志布志港は、これらの取組を支えるプラットフォームとして、世界に広がる「南九州地域の拠点港」を目指し、“志”あふれる地域づくりの一翼を担う。

第3章 志布志港の目指す姿と基本戦略及び取組方針

○基本理念のもと社会情勢や志布志港を取り巻く状況の変化を踏まえ、課題の解決に向けて、概ね20～30年後の志布志港が目指す姿（将来像）を定めた。

長期構想の基本理念

地域のポテンシャルと稼ぐ力を引き出す、世界に開かれた“志”あふれる 志布志港

～ 志布志港の目指す姿 ～

I. 物流・産業

「国内外とつながり、地域の経済と暮らしを支えるみなと」

II. 人流・賑わい

「人と人がつながり、魅力や賑わいにあふれるみなと」

III. 安全・安心

「住民や企業活動の安全・安心を支える強靱なみなと」

IV. 環境・エネルギー

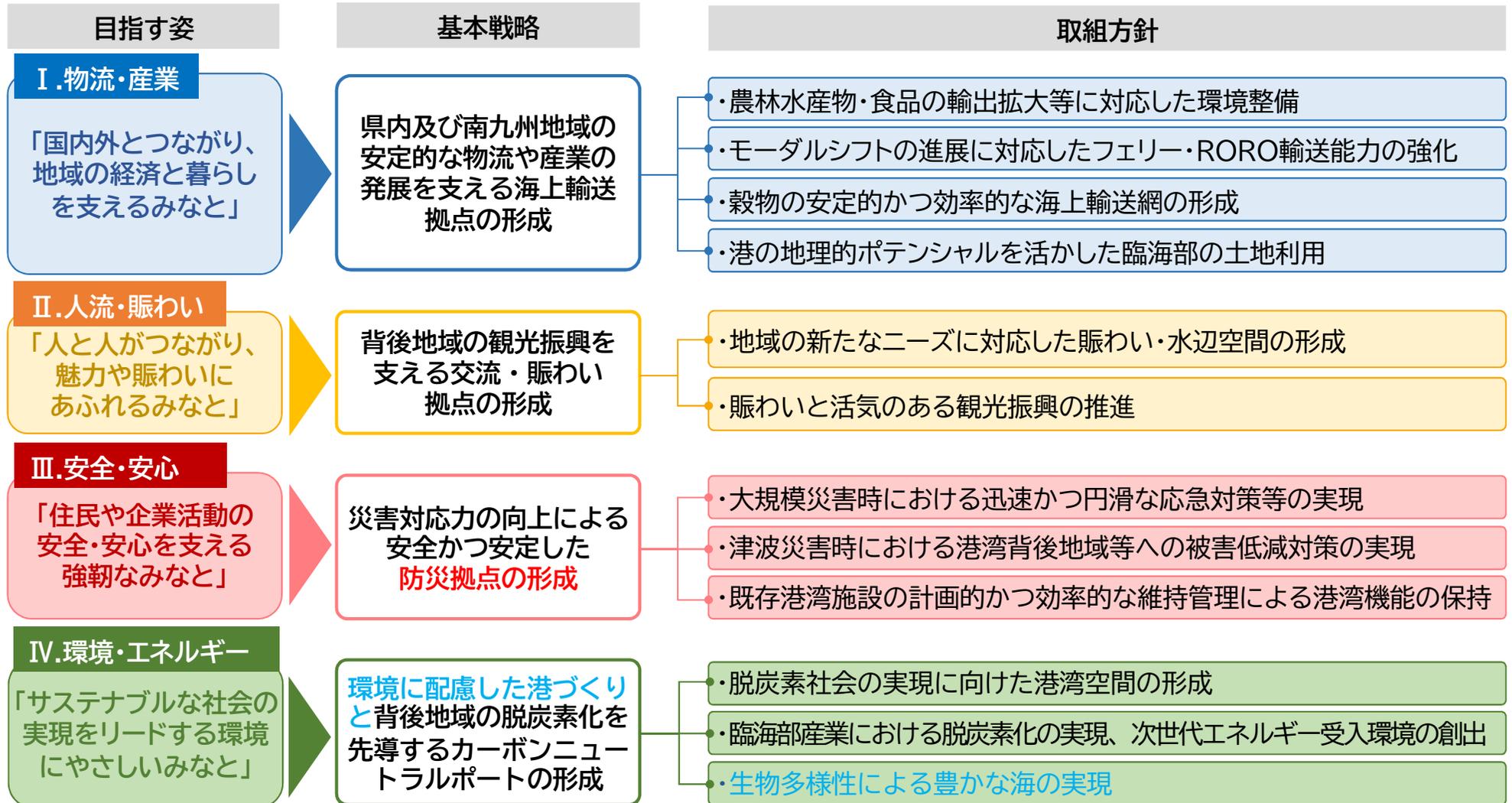
「サステナブルな社会の実現をリードする
環境にやさしいみなと」



○「志布志港の目指す姿」の実現に向け、「Ⅰ.物流・産業」、「Ⅱ.人流・賑わい」、「Ⅲ.安全・安心」、「Ⅳ.環境・エネルギー」の視点から基本戦略を定め、基本戦略の実行に向けた取組方針を設定した。

長期構想の基本理念

地域のポテンシャルと稼ぐ力を引き出す、世界に開かれた“志”あふれる 志布志港



(背景)

- ・DXの進展、eコマース市場の急成長
- ・農林水産物・食品輸出の増加
- ・物流の2024年問題によるトラックドライバー不足
- ・南九州の畜産業を支える飼料生産能力の維持
- ・災害時の安定した物流網の確保
- ・九州屈指の豊富な航路ネットワーク
- ・交通ネットワークの充実化

(課題)

- ・コンテナによる原木輸出の横持ち解消
- ・原木輸出需要増大に伴うヤード面積の不足への対応
- ・コンテナ取扱量の増大によるターミナル面積の不足の解消
- ・フェリー・RORO貨物の需要増大への対応
- ・冷蔵・冷凍電源設備の不足への対応
- ・**物流と人流の棲み分けによる安全性の確保**
- ・新たな販路開拓や輸出商社等のニーズに応じた利便性の向上

<目指す姿>

I. 物流・産業

「国内外とつながり、地域の経済と暮らしを支えるみなと」

<基本戦略>

～県内及び南九州地域の安定的な物流や産業の発展を支える海上輸送拠点の形成～

- ✓ 近年の社会を取り巻く情勢の急激な変化に対応し、県内及び南九州地域の安定的な物流や産業の発展を支える拠点としての役割を担う港づくりを目指します。

■取組方針：農林水産物・食品の輸出拡大等に対応した環境整備
✓ 背後地域の経済の核となる農林水産業や地域住民の暮らしに必要な不可欠となる物流機能の維持・拡大に向けて、今後の物流需要増加に対応するための環境整備に取り組みます。

■取組方針：モーダルシフトの進展に対応したフェリー・RORO輸送能力の強化
✓ 脱炭素化に向けた取組の加速化や2024年問題に伴うトラックドライバー不足等の社会背景の変化に起因するモーダルシフトの進展に対応するため、フェリー・RORO輸送能力の強化に取り組みます。

■取組方針：穀物の安定的かつ効率的な海上輸送網の形成
✓ 南九州の畜産業に必要な不可欠な飼料の安定的な供給を実現するため、効率的な海上輸送網の形成に取り組みます。

■取組方針：港の地理的ポテンシャルを活かした臨海部の土地利用
✓ 東九州自動車道・都城志布志道路等の整備による交通ネットワーク充実化や九州屈指の豊富な航路ネットワークを有する地理的ポテンシャルを活かし、臨海部の土地の有効活用に取り組みます。

(背景)

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の収束
- ・入国規制緩和によるインバウンド需要の増加
- ・クルーズ船「にっぽん丸」が志布志港に寄港
- ・賑わい・水辺空間が不足
- ・緑地公園の低利用化
- ・マイクロツーリズムの普及
- ・海釣り需要の高まり

(課題)

- ・賑わい空間の創出・再構築
- ・大型クルーズ船への対応
- ・緑地公園の低利用化の解消
- ・海の玄関口としての景観への配慮

<目指す姿>

Ⅱ.人流・賑わい

「人と人がつながり、魅力や賑わいにあふれるみなと」

<基本戦略>

～背後地域の観光振興を支える
交流・賑わい拠点の形成～

- ✓ 県内観光の玄関口として、アフターコロナの需要の高まりに対応し、背後圏を含む地域の観光振興を支える拠点としての役割を担う港づくりを目指します。

■取組方針：地域の新たなニーズに対応した賑わい・水辺空間の形成
✓ アフターコロナのクルーズ需要の高まりやフェリーの機能移転に対応し、多くの観光客や港湾利用者が集う賑わい空間・景観の形成、及び海の魅力を感じる水辺空間の形成に取り組みます。

■取組方針：賑わいと活気のある観光振興の推進
✓ インフラツーリズムやアドベンチャーツーリズム等の体験型観光コンテンツの需要を取り込み、背後地域と連携した賑わいと活気ある観光振興の推進に取り組みます。

(背景)

- ・鹿児島県志布志市では、最大クラスの南海トラフ巨大地震で最大震度6強、最大津波高6.66mを想定
- ・幹線貨物輸送用の耐震強化岸壁が未整備
- ・気候変動の影響により災害の甚大化が懸念
- ・高度経済成長期に集中整備されたインフラの老朽化が加速
- ・既存インフラの維持管理費の増大

(課題)

- ・原木・コンテナ等流出による背後地域への被害低減
- ・泊地埋没による水深不足の解消
- ・長周期波の低減化による港内静穏度の向上
- ・台風時の漂流物への対応
- ・原木・コンテナ等流出による航路閉塞への対応

<目指す姿>

Ⅲ.安全・安心

「住民や企業活動の安全・安心を支える強靱なみなと」

<基本戦略>

～災害対応力の向上による安全かつ安定した**防災拠点の形成**～

- ✓ 想定される大規模災害を踏まえた**ハード対策**や**港湾BCP**などの**ソフト対策**による災害対応力を向上させ、頻発化・激甚化する自然災害から地域や産業を守り、安全・安心を支える港づくりを目指します。

■**取組方針：大規模災害時における迅速かつ円滑な応急対策等の実現**
✓ 逼迫する巨大地震や気候変動に伴い甚大化する大規模災害の発生に対応するため、迅速かつ円滑な応急対策に取り組みます。

■**取組方針：津波災害時における港湾背後地域等への被害低減対策の実現**
✓ 津波災害時における人的・物的被害を最小限に抑えるため、港湾背後地域等への被害低減対策に取り組みます。

■**取組方針：既存港湾施設の計画的かつ効率的な維持管理による港湾機能の保持**
✓ 既存港湾施設の老朽化に伴う維持管理費の増大に対応するため、計画的かつ効率的な維持管理による港湾機能の保持に取り組みます。

(背景)

- ・政府は令和2年(2020年)10月に「2050年カーボンニュートラル」を宣言
- ・鹿児島県は令和12年度(2030年度)までに温室効果ガス排出量を46%削減する目標
- ・若浜地区には温室効果ガス排出量の多い臨海部産業が集積
- ・水素等の次世代エネルギー受入用地の不足
- ・観光客向けの景観の魅力不足

(課題)

- ・港湾機能や臨海部産業の脱炭素化によるカーボンニュートラルポート(CNP)の形成
- ・水素等の次世代エネルギーへの転換の促進
- ・CO2の新たな吸収源の確保

<目指す姿>

IV.環境・エネルギー

「サステナブルな社会の実現をリードする環境にやさしいみなど」

<基本戦略>

～環境に配慮した港づくりと

背後地域の脱炭素化を先導する
カーボンニュートラルポートの形成～

- ✓ 臨海部産業や港湾物流の活動における次世代エネルギーの利活用やブルーインフラの導入を通じて、背後圏を含む地域の脱炭素化を先導する拠点としての役割を担う港づくりを目指します。

■取組方針：脱炭素社会の実現に向けた港湾空間の形成

- ✓ 2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、港湾機能の脱炭素化に配慮した港湾空間の形成に取り組みます。

■取組方針：臨海部産業における脱炭素化の実現、次世代エネルギー受入環境の創出

- ✓ 臨海部産業の脱炭素化の実現に必要な不可欠な水素等の次世代エネルギーの利活用を図るため、次世代エネルギー受入環境の創出に取り組みます。

■取組方針：生物多様性による豊かな海の実現

- ✓ CO2吸収源として期待されているブルーカーボン生態系の創出や環境に配慮した港湾施設整備の促進に取り組みます。

第4章 具体施策

I. 物流・産業

国内外とつながり、地域の経済と暮らしを支えるみなと



取組方針	具体施策
農林水産物・食品の輸出拡大等に対応した環境整備	I-① 国際コンテナターミナルの機能強化
	I-② 情報通信技術を活用した港湾のスマート化
	I-③ 外貿定期コンテナ航路の拡充
	I-④ バルク貨物（林産品）ターミナルの形成
モーダルシフトの進展に対応したフェリー・RORO輸送能力の強化	I-⑤ 次世代高規格ユニットロードターミナルの形成
穀物の安定的かつ効率的な海上輸送網の形成	I-⑥ 穀物の安定的かつ効率的な輸入拠点の整備
港の地理的ポテンシャルを活かした臨海部の土地利用	I-⑦ 産業用地の確保と企業立地の促進

II. 人流・賑わい

人と人がつながり、魅力や賑わいにあふれるみなと



取組方針	具体施策
地域の新たなニーズに対応した賑わい・水辺空間の形成	II-① 地域に開かれた緑地公園の拡充
	II-② みなとを中心とした交流拠点の創出
	II-③ クルーズ船の受入環境整備
賑わいと活気のある観光振興の推進	II-④ 魅力的な観光コンテンツの創出

Ⅲ.安全・安心 住民や企業活動の安全・安心を支える強靱なみなと



取組方針	具体施策
大規模災害時における迅速かつ円滑な応急対策等の実現	Ⅲ-① 災害に強い港湾施設・輸送網の形成
	Ⅲ-② 港湾施設等の整備に必要な不可欠な作業船の係留場所の確保
津波災害時における港湾背後地域等への被害低減対策の実現	Ⅲ-③ 原木・コンテナ等流出防止対策の推進
	Ⅲ-④ 住民等避難体制の構築
既存港湾施設の計画的かつ効率的な維持管理による港湾機能の保持	Ⅲ-⑤ 戦略的なインフラマネジメントの推進

Ⅳ.環境・エネルギー サステナブルな社会の実現をリードする環境にやさしいみなと



取組方針	具体施策
脱炭素社会の実現に向けた港湾空間の形成	Ⅳ-① 脱炭素化の推進に向けた港湾機能の高度化
臨海部産業における脱炭素化の実現、次世代エネルギー受入環境の創出	Ⅳ-② 臨海部産業の脱炭素化に貢献する港湾空間の創出
	Ⅳ-③ 次世代エネルギーの受入環境整備
生物多様性による豊かな海の実現	Ⅳ-④ 環境に配慮したブルーインフラの導入

施策Ⅰ-① 国際コンテナターミナルの機能強化

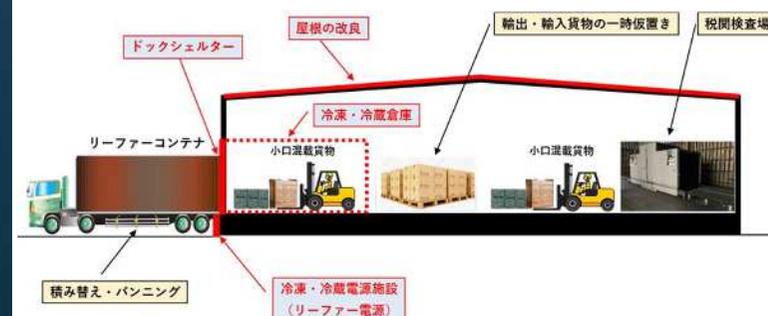
<p>背景・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテナ取扱量の増大によるターミナル面積の不足の解消 ・今後需要が期待される農林水産物・食品輸出の増加
<p>施策内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテナ蔵置のための用地不足解消のため、コンテナターミナルの拡張を図る ・農林水産物・食品の輸出拡大のため、既存上屋を改修し冷凍・冷蔵施設等の整備を図る



コンテナターミナル内の既存上屋



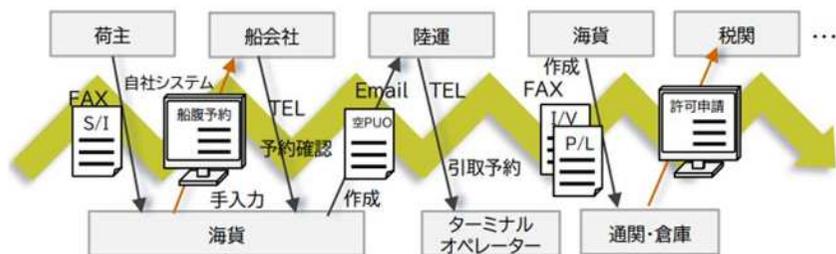
既存上屋の改修のイメージ



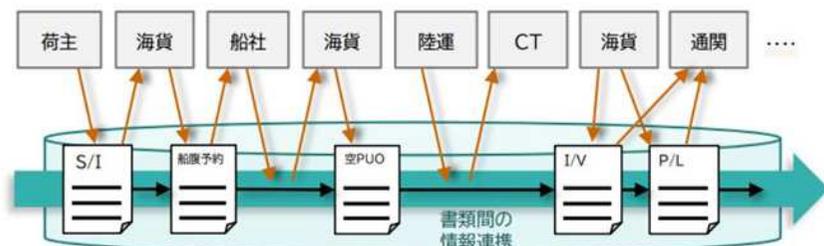
施策 I - ② 情報通信技術を活用した港湾のスマート化

背景・課題	<ul style="list-style-type: none"> 生産年齢人口の減少や高齢化による労働者不足 港湾におけるDXを通じた抜本的な生産性の向上
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者間の港湾物流手続を電子化する「Cyber Port」や、ゲート処理及びヤード内荷役作業を効率化する「CONPAS (Container Fast Pass)」等の情報通信技術の活用を図る 港に携わる担い手の確保・育成とIT技術の習得促進を図る

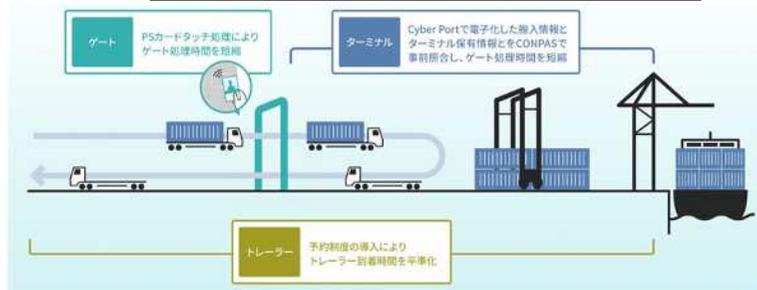
現状の事業者間の情報伝達イメージ



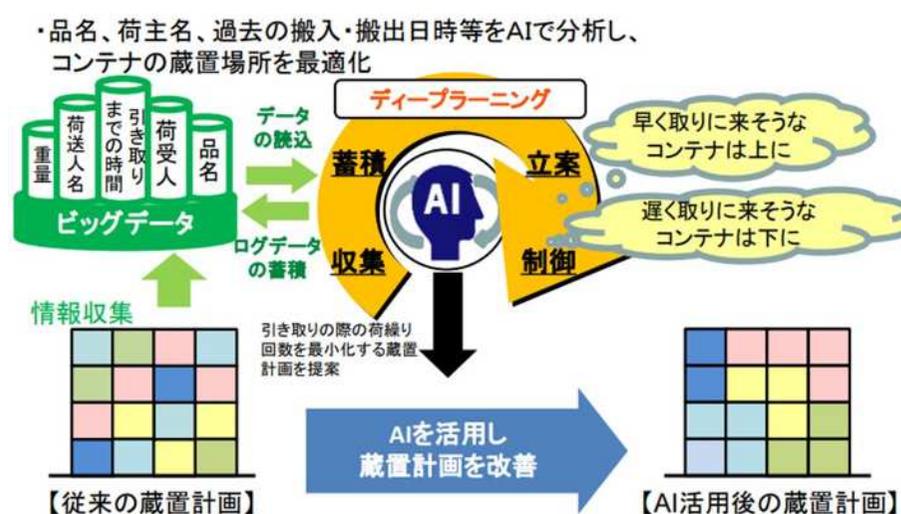
Cyber Portを活用した事業者間の情報伝達イメージ



CONPAS等による物流の効率化のイメージ



AIを活用したコンテナ蔵置場所の最適化のイメージ



担い手確保及びIT技術の習得に向けた取組イメージ



出典：国土交通省「港湾労働者不足対策 アクションプラン」(R4.7)

出典：国土交通省「インフラDXに向けた取組紹介」

施策 I - ③ 外貿定期コンテナ航路の拡充

背景・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を経たeコマース市場の急成長 ・魅力的な南九州地域の農林水産物・食品の輸出拡大
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> ・船社や荷主企業、商社等に対し、官民一体となったポートセールス活動やセミナーの開催 ・県産品等の海上小口混載貨物輸送等、志布志港の利用促進を図るための支援を実施

官民一体となったポートセールス活動やセミナーの開催

PRポスターによる魅力発信



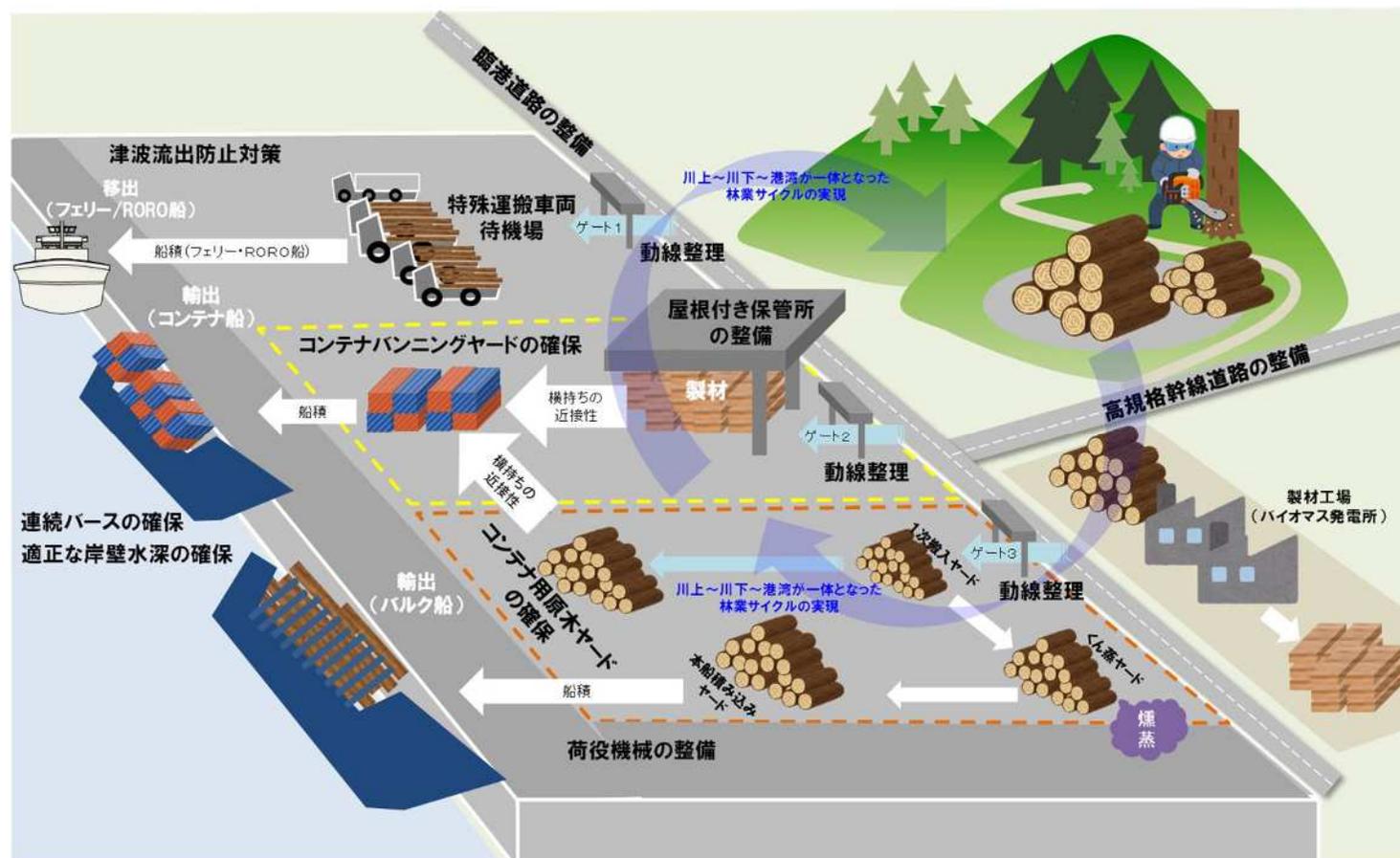
志布志港の利用促進のためのトライアル事業



施策 I - ④ バルク貨物（林産品）ターミナルの形成

背景・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・原木輸出需要増大に伴うヤード面積の不足への対応 ・コンテナによる原木輸出の横持ち解消
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> ・点在する原木ヤードを集約するため、新若浜地区に新たにバルク貨物（林産品）ターミナルを整備する ・持続可能な林産品輸送体制の構築を検討する

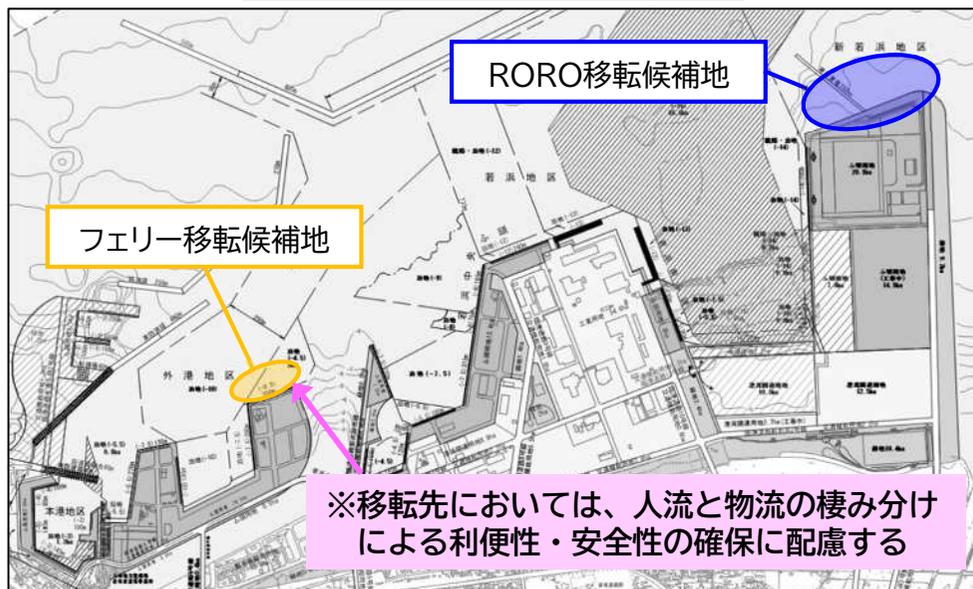
林産品ターミナルのイメージ



施策 I - ⑤ 次世代高規格ユニットロードターミナルの形成

背景・課題	<ul style="list-style-type: none"> 船舶大型化、フェリー・RORO貨物需要の増大、物流の2024年問題による陸送貨物のモーダルシフトへ対応 冷蔵・冷凍電源設備の不足への対応
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> 外港地区にフェリー機能を、新若浜地区にRORO機能を移転し、利便性・安全性の向上を図る モーダルシフトを促進する次世代高規格ユニットロードターミナルの形成を図る 情報通信技術を活用した効率的なシャーシ管理システムの導入を図る

フェリー・RORO機能の移転候補地



次世代高規格ユニットロードターミナルのイメージ



出典：国土交通省HP「次世代高規格ユニットロードターミナル検討会 中間とりまとめ」

情報通信技術を活用した効率的なシャーシ管理のイメージ

①入退管理機能が撮影による車番の読取 → ②車両損傷確認機能が撮影による損傷状況の記録 → ③車両位置管理機能が撮影による車両の追跡



出典：国土交通省「ターミナル管理システムの構築及び現地技術検証」(R6.3.12)

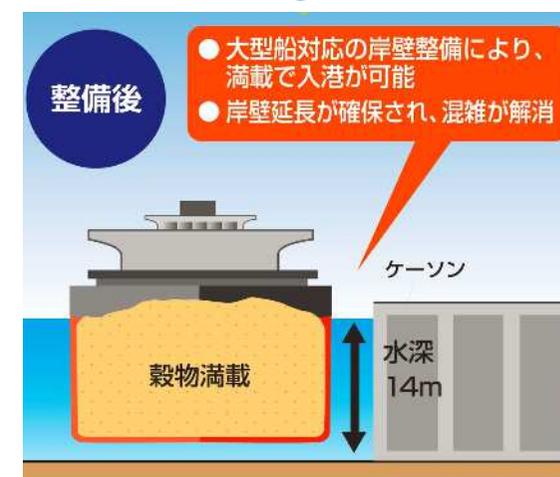
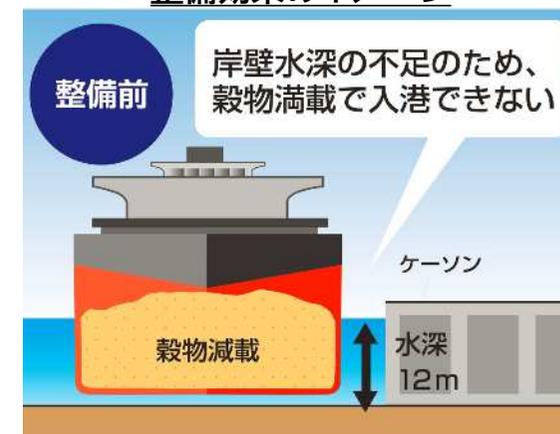
施策 I - ⑥ 穀物の安定的かつ効率的な輸入拠点の整備

背景・課題	<ul style="list-style-type: none">南九州の畜産を支える飼料生産能力の維持災害時においても安定した供給を確保
施策内容	<ul style="list-style-type: none">安定的かつ効率的な輸入拠点の形成を図るため、大型穀物船に対応する耐震強化岸壁等を整備する企業間連携による共同輸送の促進を図る

志布志港心頭再編改良事業（新若浜地区）



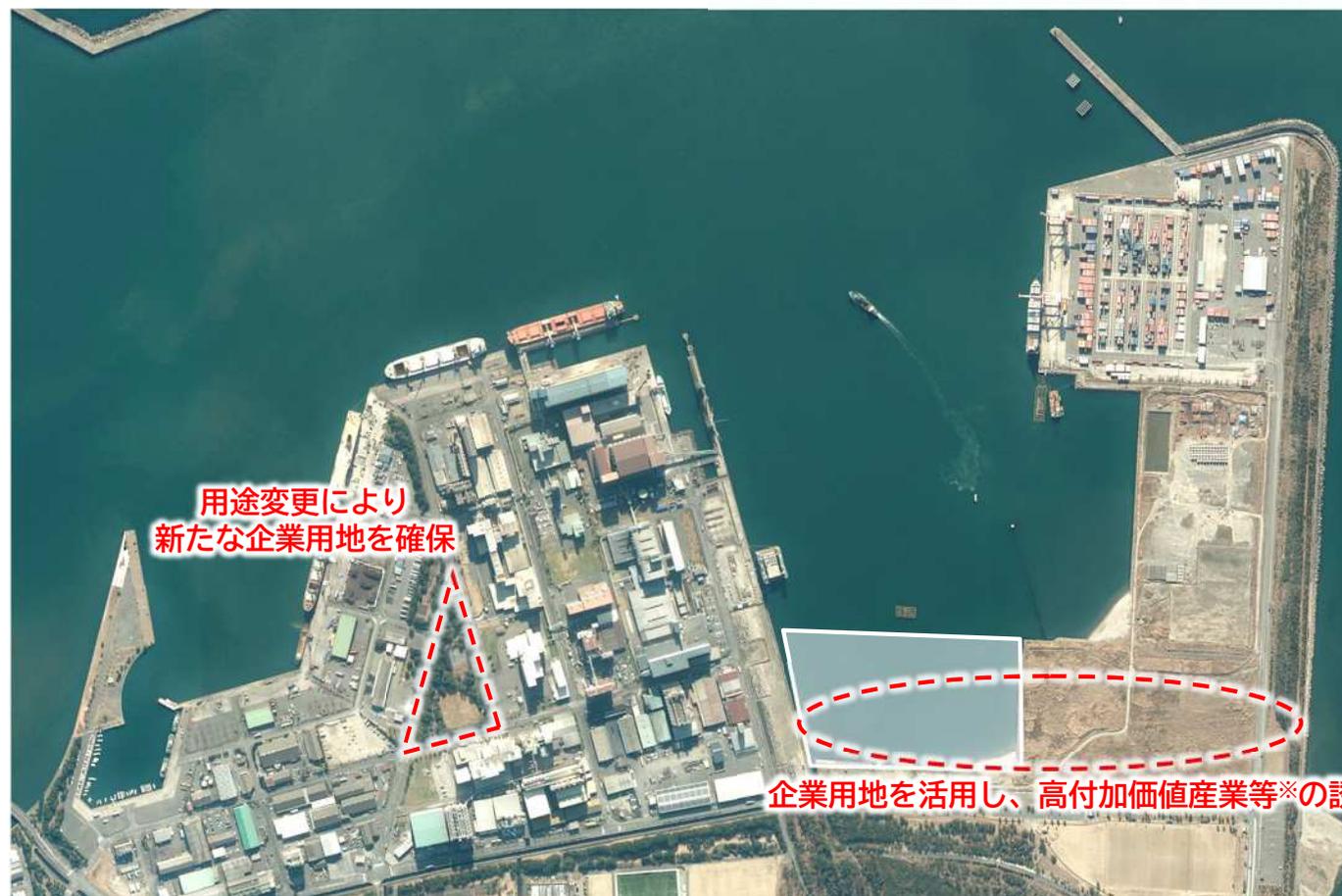
整備効果のイメージ



施策 I - ⑦ 産業用地の確保と企業立地の促進

背景・課題	・ 志布志港の地理的優位性や交通ネットワークの充実等を活用した臨海部産業の活性化
施策内容	・ 低利用となっている緑地公園を地域のニーズに基づく用途に変更することで新たに企業用地を確保 ・ アクセス性の高い企業用地を有効活用し、臨海部への高付加価値産業等※の誘致を促進し、 雇用の創出を図る

緑地公園（若浜運動公園）



※地域資源活用型の工場（製造・加工・輸出機能）や流通加工等の機能を有する付加価値型の物流施設

施策Ⅱ－① 地域に開かれた緑地公園の拡充

背景・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地公園の低利用化の解消、賑わい空間の創出・再構築 ・海の玄関口としての景観配慮
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> ・低利用な緑地公園を市街地に近接する外港地区に移転し、志布志湾の景観を一望できる緑地を配置・整備 ・外港地区へのフェリー機能の移転に伴い、フェリーターミナルを核とした賑わい空間の創出、臨港道路沿いの景観に配慮した緑地空間の形成を図る ・移転後の緑地は、市民や来訪者の憩いの場・親水空間としての形成を図る。なお災害時においても安全・安心な環境となるよう防災面に配慮する



景観に配慮した緑地のイメージ



防災面に配慮された緑地のイメージ



施策Ⅱ－② みなとを中心とした交流拠点の創出

背景・課題	・賑わい空間の創出・再構築
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客や地域住民が親しめる交流拠点に「みなとオアシス」制度の導入を検討するとともに、これらの機能強化を図る ・「みなと緑地PPP制度」等、民間の資金やノウハウの活用による新たな交流拠点の創出を検討 ・行政、市民、企業、NPO等の連携・協働による地域の取組み、海・みなとから見た地域づくり・地域創生の取組促進

志布志港における交流拠点



みなと緑地PPP制度の概要

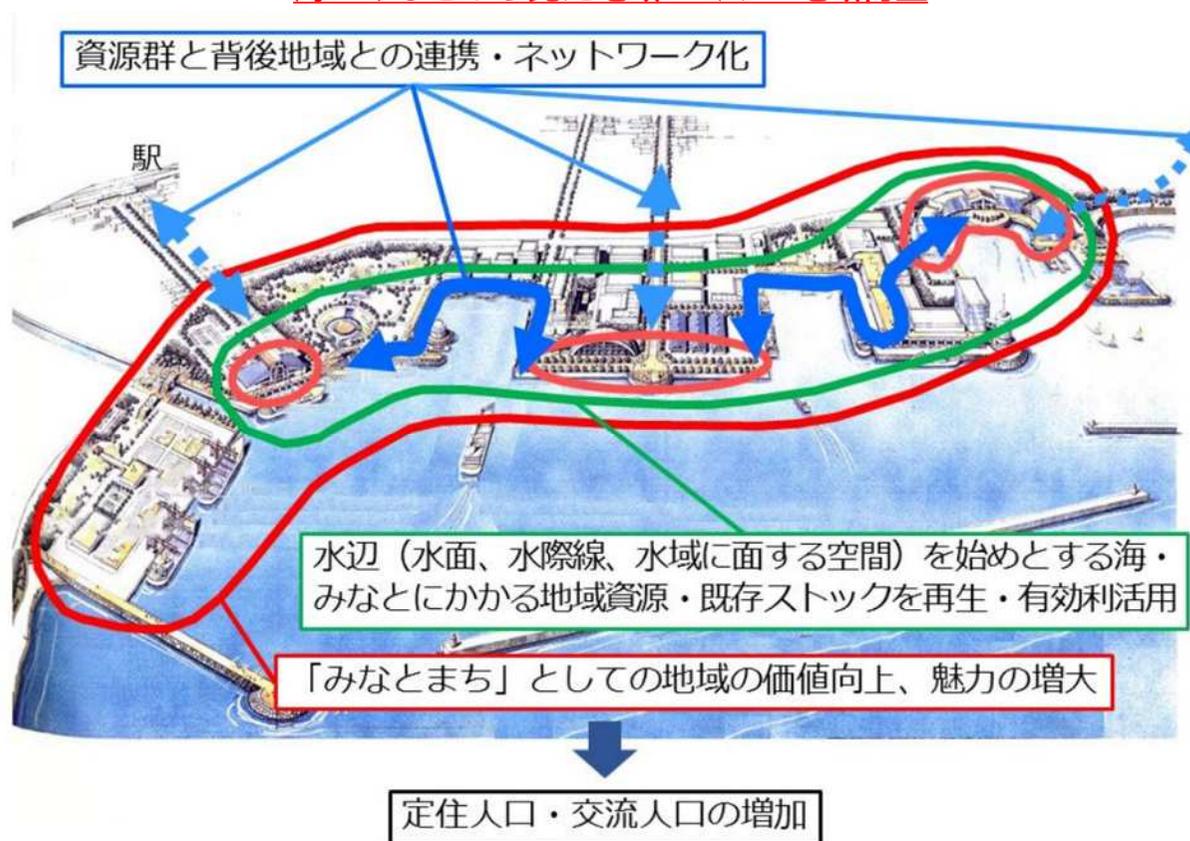


出典：大阪市HP

施策Ⅱ-② みなとを中心とした交流拠点の創出

背景・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わい空間の創出・再構築
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客や地域住民が親しめる交流拠点に「みなとオアシス」制度の導入を検討するとともに、これらの機能強化を図る ・「みなと緑地PPP制度」等、民間の資金やノウハウの活用による新たな交流拠点の創出を検討 ・行政、市民、企業、NPO等の連携・協働による地域の取組、海・みなとから見た地域づくり・地域創生の取組促進

海・みなとから見た地域づくり・地域再生



施策Ⅱ－③ クルーズ船の受入環境整備

背景・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本格的な国際クルーズの受入再開 ・大型クルーズ船需要への対応
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中小型クルーズ船は若浜地区旅客船心頭、大型クルーズ船は外港地区防波堤沖側での受入を図る ・ハード・ソフト両面からクルーズ船の受入環境を整備するとともに、積極的な寄港誘致に努める ・大隅地域の魅力ある地域資源や歴史的資源を活用し、広域周遊が可能なツアーメニューの造成に取り組む

「にっぽん丸」寄港時の様子（令和4年11月）



広域周遊が可能な
ツアーメニューの造成



大隅地域の地域資源・イベント・歴史的資源



宝満寺跡



志布志城跡



写真協力：志布志市観光特産品協会



写真協力：志布志市観光特産品協会



写真協力：公益社団法人 鹿児島県観光連盟



写真協力：公益社団法人 鹿児島県観光連盟